地域とともに ～地域の一員としてコープいしかわができることを～

小松市の1.5次避難所へ

1月26日（金）に1.5次避難所となっている小松総合体育館へ小松センターより物資をお届けしました。お届けした商品は、賞味期限の長いパンやカップ麺の他、粉末の緑茶スティックや野菜ジュースなども含まれており、避難所のニーズと調達できる商品を調整して選定したものです。

粟津温泉の2次避難所へ 昼食と夕食を

石川県からの要請を受け、2月8日（木）から粟津温泉のホテルで2次避難している方約70名分の食事をコープいしかわで調達し、お届けしています。朝食は長期保存できるパンを事前にお届けし、昼食はコープこまつからいーじ～便でお弁当を、夕食は小松センターから夕食宅配のお弁当をお届けします。

▲ 昼食を届けるコープこまついーじ～便職員

▲ 夕食を届ける小松センター職員

珠洲市で避難所までの物資輸送支援

珠洲市で支援物資の拠点となっている健民体育館から周辺の避難所への物資輸送を自衛隊が担っていますが、2月13日（火）よりその一部を生協が引き継ぎ、コープいしかわの配送トラック2台で輸送支援を行っています。これにより自衛隊が他の復旧作業にあたることができるようになります。

産業展示館へパン4,000個

石川県と締結している災害時支援協定に基づいて2月5日（月）、支援物資の集積所となっている石川県産業展示館４号館へロングライフパン約4,000個を納品しました。

避難所高齢者への介護職員派遣

全国の生協や生協の社会福祉法人が参加する「全国コープ福祉事業連帯機構」では、全国生協および医療福祉生協連合会に介護職員派遣を呼びかけ、毎週20名の介護職員が2月10日（土）から3週間に渡って1.5次避難所となっているいしかわ総合スポーツセンターで避難している介護の必要な高齢者の生活支援などをしています。

職員を支える ～のとセンター職員が安心して働けるように～

生活支援制度の説明会

ご家族や自身の家屋が被災している職員もいる中で、普段の暮らしに少しでも早く戻れるように、各種支援制度をまとめた「生活支援冊子」の作成配布の他、説明会を開催するなどしています。

必要な物資を調達

飲料水ケース、暖かい肌着やズボン、大人用のダウンジャケットなどの他、子ども用も含めて衣料を調達し、支給しています。

働ける環境を整える

▲ のとセンターに仮設の水洗トイレを設置

▲ 洗濯機を2台設置することで、職場で洗濯ができるようになりました

全国の生協職員による災害支援チーム 能登町で炊き出しなど開始

日本生協連災害支援チームが能登町で避難所の訪問や炊き出しなどの活動を開始しました。避難所に支援物資を届けながらニーズの聞き取りや調達、炊き出しの準備と配食、今後のボランティア活動が円滑に進むよう施設の備品や整理などの活動をされています。

▲ 集会所に洗濯機をお届けしました

▲ 能登町の公民館でご飯と豚汁を作り提供

中途採用・新卒高校生の就職支援

被災により就職が困難になった2024年卒の高校生を対象に、配送と店舗職種でのエリア正規職員の募集を開始しました。勤務先は能登に限らず全配送センターと店舗が対象で、生徒が希望する勤務地を考慮して賃貸物件を準備し、住宅補助が2年間あります。同様に、被災により現在の就業先での事業継続ができない、家屋の損壊で勤務できないなどの方を対象に配送職での中途採用対応を進めています。

詳しくは こちら

組合員向け「応援ボランティア」登録＆活動 開始

コープいしかわ16万人の組合員の力を結集し、できることから被災者支援に取り組めるよう組合員に向けて応援ボランティアの登録を呼びかけています。

登録は こちら

2月4日（日）、輪島市から約300名が避難している山代温泉みやびの宿 加賀百万石で、教え合い講師の兵庫 美和子さんを講師に心と体をリフレッシュするプログラムを開催 ▶

たくさんの募金 ありがとうございます

宅配事業と店舗事業では１月上旬より支援募金の案内をしています。
2月9日現在で16,559名の組合員から約2,400万円を超える募金を寄せていただいています。
皆さまからの温かい善意に感謝申し上げます。

みやぎ生協石巻センターからのメッセージ

みやぎ生協石巻センターでは、東日本大震災のときに全国から届いた励ましの言葉に救われた経験があったことから、「能登に行けなくても何かできることはないか」と考え、組合員へメッセージを募集し、コープいしかわに届けてくれました。13年前に被災した辛い経験を持った方からの励ましの言葉を一部ですが掲載させていただきます。

いつも通り＊日常とは かけはなれた生活をしていますよね。
でも なんとかなりますからね。
ぜったい なんとかなります！
がんばらなくていいんです。みんながんばっているのですから。
しっかり声をあげてください。がまんしないで！
みなさんが早く落ちついた生活が
おくれますように。願っています。
宮城県 東松島

私自身も津波で自宅が全壊し、あの頃は一日一日を過ごすことで精一杯でしたが、みなし仮設の入居を経て、なんとか元の生活に戻すことができました。無理をして頑張ることは極力避けて、一日も早く安定した生活に戻ることを願っています。

自分も経験したとはいえ、言葉もありません。どんな励ましもむなしく届いてしまうことも身を持って知っています。でも明日はやってきます。生きて生きて1分1秒を大切に過ごしてください。笑える日が必ず必ずきますから。